

Argentina

アルヘンティーナ

No. 62



Plaza de Congreso, Buenos Aires (国会議事堂前広場、ブエノスアイレス市：2009/11/12撮影)

一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2013年6月

ブエノスアイレスの彫刻モニュメントを巡ろう

(Juan Pablo Marturano) 2

タンゴの懸け橋となった偉大な先達・その2

(島崎 長次郎) 4

アルゼンチン

—私のブエノスアイレス (シシド・カフカ) 5

2013年第1四半期の動き

—アルゼンチン政治経済短信 (荒尾 保一) 7

Resumen en castellano 8

協会の活動案内

～6月28日(金) 第19回「タンゴ音楽の集い」
..... 9

～6月30日(日) 茨城県境町

長田小学校恒例行事「アルゼンチンの日のつどい」
および境町「アルゼンチン・タンゴ・ショー
in 境町」..... 9

協会の活動報告

～4月1日(月) 一般社団法人日本アルゼンチン
協会発足..... 9

～5月25日(土) 亜国ナショナル・デイ記念
レセプション 於：アルゼンチン大使館..... 9

～5月31日(金) 第1回定時総会/第2回理事会
..... 10

～5月31日(金) 懇親会..... 11

ブエノスアイレスの彫刻モニュメントを巡ろう

Juan Pablo Marturano

私は、1975年にアルゼンチンのブエノスアイレス市に生まれたファン・パブロ・マルトゥラーノと申します。

小学校の頃からアートが好きになり勉強を始めました。油絵、版画、彫刻、デッサンの授業を受けましたが、結局彫刻に最も引きつけられました。

1999年にアルゼンチンの美術大学を卒業してから翌年に、石彫に興味がある私は、彫刻の世界でも有名なカララ大理石の制作技術を学びにイタリアへ行きました。

その後、日本の花崗岩を使った彫刻文化にふれてみたいと思い、2006年10月に来日しました。また日本の豊かな芸術文化の要素を吸い込み、自分の美術の概念をさらに発展させようとも考えました。

日本には、最初に金沢美術工芸大学大学院へ留学しました。大学院の彫刻コースを修了してから多摩美術大学大学院のドクターコースへ進学しました。6年半の間日本に滞在し、お陰で今年の春、彫刻に関する博士号取得の為の論文が合格して、4月にアルゼンチンに帰国しました。

異国文化ともいべき日本で得た経験は私の作品に大きく影響を与えましたが、日本滞在中の生活、自身の日本での経験にもとづく彫刻シリーズ等は、又次の機会に書きつづりたいと思っています。まずは今回は、自分の故郷の彫刻について皆さんにご紹介したいと思います。

首都ブエノスアイレスでは多くの素晴らしい彫刻作品があります。その中で、おそらく一番著名な作家はオーギュスト・ロダン (Auguste Rodin、フランス 1840-1917) であることは間違いないでしょう。ロダンの有名な《考える人》(Le Penseur) はブエノスアイレスの国会の広場 (Plaza del Congreso) に1909年に設置されました。しかし、注目すべき例はパレルモ地区にあるサルミエント大統領への作品です (D.F. Sarmiento、アルゼンチン 1818-1888)。これは、ロダンの作品の中では外国政府から頼まれた唯一のモニュメントです。

《サルミエント大統領への記念碑》は二つの部分があります (図1左)。上部は、サルミエント大統領を表しているブロンズ彫像で、下部は、白大理石で作られた台座です。台座の正面には「アポロと蛇」神話が彫られ、裏面にはアルゼンチン国立紋章を表している浮き彫りがあります。

ロダンの有名な弟子であり助手のアントワーヌ・ブールデル (Antoine Bourdelle、フランス 1861-1929) の作品もブエノスアイレスで観賞できます。例えば、レコレータ地区の公園では《瀕死のケンタウロス》(Centaure Mourant) と《弓をひくヘラクレス》(Héraklès Archer) が設置され、その近くに大きな《アルベアル將軍記念碑》もあります (General C.A. de Alvear、アルゼンチン 1789-1852)。高さ14メートルの台の頂上では、馬に乗っているアルベアル將軍を表しているブロンズ像があり、四角の台のそれぞれの角に自由、力、雄弁、勝利のアレゴリーを表現する人体像で構成されています (図1右)。



図1 左：サルミエント大統領記念碑
右：アルベアル將軍記念碑

このモニュメントに関わる面白い逸話を紹介します。ブールデルはモニュメントのマケットを提案した時に「すみません、アルベアル將軍は將軍の帽子をかぶっていないのですか？」と尋ねられた時、ブールデルは「帽子は戦いの中でなくなった」と返事したそうです。フランスの彫刻から影響を受けたアルゼンチンの作家には様々な例がありますが、一つを挙げるとロヘリョ・イルルティア (Rogelio Yrurtia、アルゼンチン 1879-1950) がいます。サンテルモ地区に設置されている《労働への唱歌》(Canto al trabajo) は彼の一つの作品です。幅広い台の上に人々のグループは大きい石を引っ張るというブロンズの彫刻です (図2左)。

一方、イタリアへ留学したローラ・モラ (Lola Mora、アルゼンチン 1866-1936) はその時代としては珍しい女性の彫刻家でした。彼女は白大理石の作品が多いですが、その一つにプエルト・マデロ地区 (Puerto

Madero) に素晴らしい《海の精たち》(Las Nereidas) 噴水があります(図2右)。これは、ギリシャ神話のヴィーナスの誕生をテーマとしていて、中心に二人のネレイダが上げている貝殻のうえにヴィーナスがいます。そして、馬三つとトリートン三つがネレイダたちを取り囲んでいます。この作品は、初め1903年にコロンブス公園(Parque Colón)に設置されましたが、裸婦像であったために大騒ぎになってしまい、近郊への現在の場所に移動されたそうです。



図2 左：労働への唱歌
右：海の精たち

そして、ちょうど《海の精たち》の前に、「E. de la Carcova」石膏像美術館があります。ここでは、本物の作品ではなくても忠実に複製された彫刻によって、様々な時代と異国文化の作品を比較することができる美術館です。

街を回ると、色々な現代作家の作品も観賞ができます。たとえば、Parque Thays公園にあるフェルナンド・ボテロ(Fernando Botero, コロンビア1939-)の《男のトルソ》(図3左下)やマルタ・ミノヒン(Marta Minujín, アルゼンチン1941-)の《人類と国連—分裂されているヴィーナス—》(La Humanidad y las Naciones Unidas -Venus fragmentándose-) (図3左上)などです。そして、建築家のエドアルド・カタラーノ(Eduardo Catalano, アルゼンチン1917-2010)の《フロラリス・ヘネリカ》(Floralis Genérica)が国連の広場(Plaza de las Naciones Unidas)にあります。このステンレス鋼で作られた23メートルの高さの「花」は昼間の明るさによって花卉が開いて夜になると花卉が閉じます(図3右)。

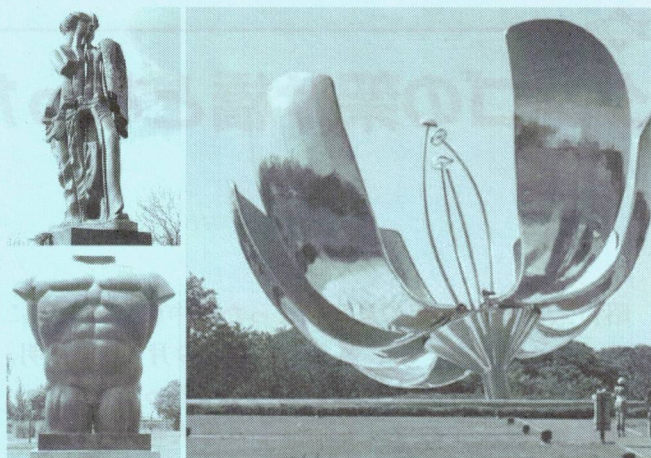


図3 左下：男のトルソ
左上：人類と国連—分裂されているヴィーナス
右：花

今回は、短く少ない例を述べましたが、ブエノスアイレスを歩く人は上記の彫刻を楽しみながら他の面白くまた素晴らしい作品もきっと発見することができるでしょう。

(ふあん・ぱぶろ・まるとうら一の：彫刻家
6年間日本に留学、本年4月帰国)

彫刻家杉本準一郎氏とファン・パブロ・マルトウラーノ氏

彫刻家杉本準一郎氏(滋賀県信楽出身)は、金沢美術工芸大学美術学部彫刻科で彫刻を学び、1974年から愛知県常滑野外彫刻展を始めて以来、常滑市を活動の拠点として、世界中を巡り活躍されている彫刻家。

ファン・パブロ氏も、多摩美術大学大学院博士課程に在学前は、金沢美術工芸大学大学院に学び、2010年にその彫刻専攻科を終了。杉本氏は、或る時、後輩でもあるパブロ氏の作品製作に対する心構え、製作の姿、言動にいたく感心し、以来共にイタリア、インド、ネパール等に赴き、共同制作公開、彫刻シンポジウム、作品提供等行っている。

杉本氏は、2010年9月の常滑市主催「愛LANDMARKシンポジウム」には、シンポの代表として参加し、そのメインテーマの一つとして、「石の彫刻二基の公開制作」をファン・パブロ氏と共に実施した。在日アルゼンチン大使館を代表してパブロ・ロドリゲス・プリスエラ書記官(当時、文化担当書記官)が祝辞挨拶をしている。

上記石の彫刻2基は、現在あいち臨空プロムナード内に設置されている。

シンポジウム代表として挨拶された杉本氏の言葉の冒頭の一節をご紹介します。

“太平洋の陽光が伊勢湾に届き始める輝いた朝から、鈴鹿の山々、伊吹の風の方角に日が沈む太古よりの大自然の約束を背景にして人々が重ねた生活の営みの中で、共に生きる今を尋ねてみる意識が文化や交流を生み出してきました。”

(文責：加藤勝巳 当協会常務理事 会報編集長)

タンゴの架け橋となった偉大な先達・その2

島崎 長次郎

昭和12(1927)年の夏に始まった日中戦争は次第にエスカレートする一方、翌々年の14年9月1日の未明、ナチス・ドイツ軍がいっせいに雪崩を打ってポーランド領に侵攻し、いまわしい第2次世界大戦の火蓋は切られた。

そんな世情怪しい昭和14(1939)年に、戦前最後の日垂のタンゴの架け橋となった人物が、「影を慕いて」を始め多くの名作を放った日本の歌謡界に燦然と輝く作曲家<古賀政男>だった。



古賀政男

古賀は、当時の日中を巡る問題の緩和と米英との間の協調を回復する狙いもあってのことか、突然に外務省から音楽使節としてアメリカに派遣されることになった。出発は昭和13(1938)年11月、太平洋航路の女王といわれた竜田丸で横浜港からだった。途中のハワイで大歓迎を受け、ロサンゼルスに到着、ここで二世たちのオーケストラの演奏などを行うなど、楽しい交流を半年ほど続けた後、昭和14年5月のはじめに車での大陸横断の冒険を実行してニューヨークに到着する。ここでの目的は権威あるNBCのチーフ・ディレクターのブラック博士に逢うことだったが、自作の「酒は涙か溜息か」以下、「男の純情」「丘を越えて」「緑の月」などを聴かせたところ、気難しいことで知られる博士がいたく気に入って、NBC放送の電波に乗せてくれ、日本歌謡の存在を広く喧伝する結果となった。

この後に、引き続き古賀はアルゼンチン行きを実行した。実は古賀が東京駅を出発する際に藤原義江が見送りに来て、“折角だから是非南米にまで足をのばすように”と自らの体験を交えてアドバイスをしてくれたこともあって、古賀はニューヨークからブエノスアイレスまでの18日間の船旅を楽しみ、憧れのタンゴの都に到着した。



外務省派遣米国音楽使節に出発する東京駅頭。藤原義江さんがわざわざ送って下さって「南米一巡」をすすめてくれた。

評伝/古賀政男(菊池清磨著=アテネ書房)によると、「古賀は、ブエノスの栈橋で大勢のカメラマンに取り囲まれて取材を受け、殺到した報道陣に驚き、親日の空気の濃さと、日本からの移民が、いかに現地の人々に尊敬されているかが理解できた」と語っていた。

そして6月28日には地元のラジオ・エクセルシーオに出演し、現地の楽団を指揮したり、7月26日にはアルゼンチン日本文化協会後援のもと、「日本におけるタンゴの現状」のテーマで講演を行い、自作のタンゴ「夕べ仄かに」のほか、淡谷のり子、藤山一郎、ディック・ミネなど和製タンゴの歌い手たちの活躍の現状を披露した。

古賀は丁度ブエノスを訪れていた妖艶の歌姫ラケル・メレエの歌うタンゴにすっかり魅了されたようであるが、当時評判のヒット・メーカーのエンリケ・サントス・デイスセボロを始めアスセナ・マイサニなど、多くのアーティストたちと交流し、相互の音楽のいっそうの理解を深めることに成功した。



1939年(昭和14年)訪亜の際の古賀政男、M.モーレス楽団と共に

なかでもこの訪亜で特筆すべきことは、後に「アディオス・パンパ・ミーア(さらば草原よ)」のヒットで一躍売れっ子になるピアノのマリアノ・モーレスとの熱い交流で、ついには古賀の作品をモーレスの楽団がタンゴにアレンジして録音するまでに発展し、これは見事に実現したのだった。モーレスは“あなたの作品にはコラソン(心)がある”とほれ込んでレコーディングを完了させたといひ、曲によってやや古賀メロディーをいじり過ぎた嫌いはあるものの、なかなか聴かせる演奏になっていて、これは日本コロムビアから昭和14(1939)年の12月に発売になった。

[レコードNo.]	[曲 目]	[原 曲 名]
◇JX-261	女の嘆き = MI GEISHA ESTA TRISTE	青い背広で*
	藍色の夢 = SUENO AZUL (V)	望郷の唄
◇JX-262	天使の夢 = SUENO ANGELICAL	東京ラブソディ
	思い出 = RECUERDO*	夕べ仄かに

演奏 = 4 オルケスタ・ティピカ・マリアノ・モーレス * = トリオ・モーレス

帰国後の古賀は、暫くしてこのときのブエノスアイレスの思い出を胸に、タンゴで「懐かしのブエノスアイレス」を作曲、戦後結成の早川真平とオルケスタ・ティピカ東京がこれを日本コロムビアに録音、佳曲好演の定評を得た。レコードは次のとおりである。

◇A-1026「懐かしのブエノス・アイレス」
古賀政男作曲 早川真平編曲



なお蛇足になるが、マリアノ・モーレスがこの後に発表した「タンゲーラ (タンゴ好きなお嬢さん)」の中に、「荒城の月」のサビに似たメロディーがでてくるが、これはこのときの古賀との交流なのか、あるいはその2年前に訪垂して歌った藤原 (当時の得意のレパートリーだった) の影響なのか、極めて興味深いものがある。

(しまざき ちょうじろう: 日本タンゴアカデミー会長)

ブエノスアイレス

—私の中のアルゼンチン

シシド・カフカ

最近、目を引くもの、縁のあるものに、アルゼンチンに関係するものがとても多く、アルゼンチンでの生活を思い起こす事が多くなりました。

既に10年以上も経ち、あまり鮮明なものではなく、漠然としたものではありますが、これを機会に色々と思い起こしてみようと思います。

父が仕事でアルゼンチンに駐在、その関係で中学時代を2年間、ブエノスアイレスで過ごしました。

海外で生活をするという緊張感、空港に降り立った時のあの感覚は忘れられないです。

新しい土地、味わったことの無い空気、知らない言語。期待は、なかったように思います。

ブエノスアイレスのベルグラノのイメージは「茶色」。

幼少期より何度か海外旅行には連れて行ってもらっていたので、日本以外の町並みに大した感慨は無かったのですが、此処で生活すると成るとまた違った世界に見えました。

学校は現地校を選びました。

選択の理由はただ『体育の授業が楽そうだから』。

登校一日目、教室に入った途端訊かれたのは「ボカとリーベルどっち派なの?」でした。この国はきっと何処までもサッカーの国なのだろうと思いました。

言葉が解らないので同級生達とのコミュニケーションはとりづらかったです。

何度言っても、身分証明書を見せても、日本人である事を信じてもらえなかったのに、漫画本を持って行って見せると信じてもらえました。日本の漫画文化にあれ程感謝する事はこの先無いでしょう。

兎に角気を引く為に、居場所を作る為に、『セーラムーン』や『ポケットモンスター』の絵を練習しました。

絵を描くのが好きだった私は、その事で地位を築きました。

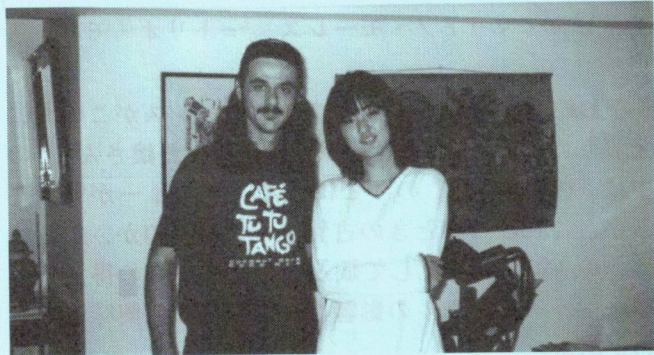
絵を描く宿題が在れば頼ってもらえ、絵を描くグループワークが在る時だけは人気者でした。

此処での学校生活は、『言葉が通じれば何でも出来る』という私の強みに成って、後の日本での生活に大きな影響を与えたと思います。

色々な場所へ飛び込む事がそれ程怖くなくなりました。

アルゼンチンでの生活で今の私に大きく影響している事は、勿論『ドラムを始める事が出来た』事です。

かの有名なアストール・ピアソラの孫、ダニエル・ピピ・ピアソラに師事し、今の私の音楽人生が始まりました。



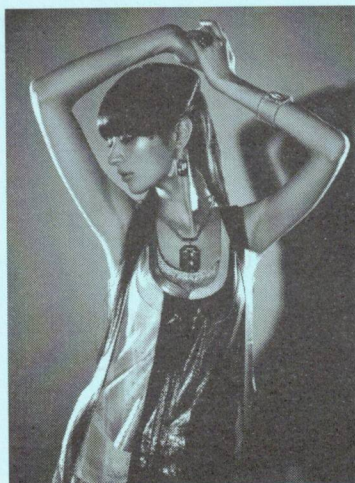
中学時代、ピアソラ先生と自宅で

基礎中の基礎が終わった後はロックやポップスではなく、タンゴに始まり各国のラテンリズムから習得していったせいか、たまにセッションで『やっぱりラテンの血が入っているね』と楽しんで頂いています。これが今の私のドラムの大きな色にも成っているかと思っています。

現在の音楽世界に入り、彼を語らずして私の音楽人生も語れない程です。

帰国後、ダニエル先生と連絡を取ることも無くなっていましたが、写真使用の件などで連絡をとらせて頂きましたが、今でも憶えて下さっていて、私の活動を喜んで下さったと聞いて、嬉しく思いました。

Tramando (アルゼンチン人デザイナーの高級ファッション・ブランド)



トラマンド・デザイン衣装で



ライブ演奏で

衣装を探してお店を回っていた時、その色使い、フォルム、布の肌触り。どれもが素晴らしいブランド Tramando と出逢いました。

自身の音楽活動の節目で着させて頂いていたのですが(ブリッツのCMの衣装も Tramando です。)、最近はご縁あってデザイ

ナーのマルティン・チュルバとも直接連絡をとらせて頂いています。

彼の影響もあるのか、最近アルゼンチンのものに変目を引かれます。

洋服に始まり、音楽、アクセサリ…気になって手に取ったらアルゼンチン産。

縁を感じずにいられないです。

あんなにも短い時間しかアルゼンチンに滞在しておらず、積極的に文化にふれあっていた訳でもないのですが、ここまで大きな影響が自分の中に残っている事に驚いています。

改めて、アルゼンチンの文化、そしてこれから文化を生み出していくもの達に、大きな期待を寄せながら、私もこの体験を糧に成長していきたいと思っています。

(ししど・かふか：ドラム・ボーカリスト)

シシド・カフカさん

当協会理事 宍戸 和郎氏の次女。昨年2012年、ドラムを叩きながら歌うロック歌手、ドラム・ボーカリストとしてメジャー・デビュー。その人気はただ今急浮上中。デビュー半年後にTV-CMをゲット、現在TV-CM(グリコ・ブリッツ)で、彼女の弾けるステージを垣間見ることが出来る。背丈175cmのプロポーションは、モデルとしても活躍中。

ブエノスアイレスに滞在中、タンゴの巨匠アストール・ピアソラの孫、ダニエル・ピピ・ピアソラ氏に師事、14歳でドラムを始める。ダニエル氏は、今や21世紀のアルゼンチン・ジャズを担うリーダー的存在のジャズドラマー。

カフカさんは、帰国後もドラムを叩き続け、一時期、ロックバンドにも所属し活動されていましたが、デビューまでの道は必ずしも平坦ではなかった。ブエノスアイレス滞在体験から、ご自身の中に何かあるもの、輝くもの—something else—が宿し、それを掘り出し、輝かせたものと、勝手ながら想像しています。

カフカさんの「弾けるステージ」、今後の益々の活躍を期待します。

Tramandoは、アルゼンチン人デザイナーによる高級ファッション・ブランドで、日本にも既に上陸、販売されているようです。

カフカ (KAVKA) は、芸名のようなので。KAVKAはチェコ語で「コクマルカラス」の意味の由。

カラスの黒がお好きなのか、ステージ衣装も黒系が多いようです。

(文責：加藤勝巳 当協会常務理事 会報編集長)

2013年第1四半期の動き

— 亜国政治経済短信 —

荒尾 保一

2013年3月に行われた国会の開会式において、フェルナンデス大統領は、本年は、亜国にとって、民政移管から30周年、キルチネル派政権誕生から10周年の記念すべき年であると演説で述べた。アルゼンチンでは、これに相応しい二つの慶事があった。

その1は、3月13日、パチカンにおけるコンクラベの結果、ブエノスアイレス大司教のホルヘ・ベルゴリオ枢機卿が第266代ローマ法王に選出されたことである。新法王は、フランシスコと名乗ることとなったが、ローマ法王が米州から選出されるのは、歴史上初めてのことであり、アルゼンチン国内は、熱狂的な祝賀ムードに包まれた。

フェルナンデス大統領は、国家元首のうちで最も早く法王と面会し、約2時間にわたって、会合及び会食を行った。

慶事の第2は、4月30日、オランダにおいて、ウイレム・アレクサンダー新国王及びアルゼンチン出身のマクシマ新王妃の即位式が行われたことである。この即位式には、ブドウ副大統領以下の公式代表団が出席した。また、パレルモの競馬場において、祝賀レセプションが開催された。

他方、フェルナンデス大統領の盟友であったヴェネズエラのチャベス大統領が3月5日に逝去したことは、フェルナンデス大統領にとって、大きな痛手であった。フェルナンデス大統領は、直ちに国内での予定を中止し、カラカスに向け、弔問のための旅に出発した。また、アルゼンチンは、国として3日間の喪に服することとなった。

また、国内においては、5月17日、1976年の軍によるクーデターで、最初の大統領となったホルヘ・ヴィデラ元大統領が死去した。享年87歳であった。また、ビデラ政権で、経財相を務めたマルティネス・デ・オス氏も3月16日、死去した。

慶弔相次ぐアルゼンチンの2013年第1四半期の主要な出来事は、次のとおりである。

1. スーパーマーケット等における価格凍結と広告規制

2月、モレノ国内取引庁長官は、主要スーパーマーケットに4月1日まで、全店舗の全商品の価格を凍結するよう要請した。また、消費者保護庁は、このモレノ長官の要請は、家電量販店、日用商品販売店にも適用することとなると発表した。また、新聞、テレビ等における安売り広告の規制を発表した。

2. 債務再編問題

(1) アルゼンチンが過去に発行してデフォルトとなった債務の再編については、米国において、地方裁判所でアルゼンチン政府に支払いを命ずる判決があり、これをアルゼンチン政府が控訴している。米国連邦第2巡回控訴裁判所において、審理が行われているが、同裁判所は、亜政府に対して、具体的な支払提案を提出するように命じた。

これに対し、亜政府は、2010年の債務交換とほぼ同様の支払提案を提出した。原告側は、これを拒否し、審理が続いている。

(2) 日本では、亜国のサムライ債権管理会社である三菱東京UFJ銀行、新生銀行及びみずほコーポレート銀行が、東京地裁において、亜政府を相手取り、債務の支払を求めていたが、1月、東京地裁は、これを却下した。

3. 「司法の民主化」改革

フェルナンデス大統領は、4月、「司法の民主化」6法案を国会に提出した。これらの法案は、より近代的で迅速、透明性のある、万人のための司法制度を目指すものであるとされているが、司法評議会のメンバーの一部を、政治家同様普通選挙によって選出するなどの内容が含まれているため、法曹界、学界、野党、労組などから三権分立の崩壊が危惧されるとともに、司法の政治化を招くとの批判が巻き上がった。

しかし、これらの法案は、上下両院で一部修正が行われたうえ、可決された。

4. ブエノスアイレス州の大洪水

4月1日から3日にかけて、ブエノスアイレス首都圏及びブエノスアイレス州で猛烈に発達した低気圧による降雨があり、大洪水が発生した。最も被害が大きかったのは、ラプラタ市で、市内のおよそ半分が浸水した。この洪水により、66名が死亡し、深刻な被害を受けた被災者は15万人以上に上った。停電や地下鉄への浸水、YPFの石油施設への浸水などがあり、経済活動へも大きな影響を及ぼした。

5. 日本企業の動き

2月、アルゼンチン・ホンダ社は、大型二輪4車種の国内生産を開始する旨を発表した。投資額は1,340万ドル、生産台数は16万台（前年比30%増）に上るとのことである。

1月、三井物産は、世界最大手のスペイン自動車プレス部品メーカーのGestamp Automacion S.L.の米州事業会社群に最大30%の資本参加をすると発表した。同事業会社群は、アルゼンチン等中南米に15工場を保有している。

6. 経済の動き

(1) 実質GDP

INDECの発表によると、2012年第4四半期のアルゼンチンの実質GDPは、前年同期比2,1%増、前期比1,3%の増であった。この結果、2012年通期の実質GDPは、前年比1,9%の増であった。

2012年第4四半期の動きをみると、民間消費や政府消費が高い伸び率を示したが、固定投資、輸出及び輸入が大きく低下している。

(2) 消費者物価指数

INDECの発表では、2013年1月は前年同月比11,1%、2月は10,8%、3月は10,6%の上昇となっている。

INDECの発表する物価指数及び実質GDPについて、IMF理事会は、情報提供義務に違反しているとして改善を求める非難決議を採択した。これに対し、亜国経済省は、この決議は、事実を反し、ダブルスタンダードであるとの反論のプレスリリースを発表した。

(3) 国際収支と外貨準備

2012年第4四半期の国際収支は、貿易収支が前年同期比1,903百万ドル減の2,509百万ドルの黒字、所得収支が2,756百万ドルの赤字となり、経常収支は3四半期ぶりに1,758百万ドルの赤字となった。

また、4月末の外貨準備は、395億ドルとなっている。

公式為替レートは、4月30日現在1ドル=5,184ペソであった。

(あらお やすいち：当協会常務理事)



Resumen en castellano

por Irene Gashu

Recorrido por las esculturas y monumentos de Buenos Aires (p. 2)

Por Juan Pablo Marturano

Después de estudiar durante 6 años y medio en Japón, obtuve el título de doctor en escultura. Regresé a Argentina en abril. Mi ciudad natal, Bs. As., tiene muchas esculturas maravillosas. Cabe mencionar algunas obras de los franceses A. Rodin y A. Bourdelle, de los argentinos R. Yrurtia y L. Mora así como también de varios escultores contemporáneos.

Puentes del tango. Parte 2 (p. 4)

Por Chojiro Shimazaki

El compositor Masao Koga viajó a los Estados Unidos en 1938 y al año siguiente llegó a Buenos Aires donde fue muy bien recibido. Koga trabajó amistad con numerosos artistas. En especial, con Mariano Mores que más tarde saltaría a la fama con "Adiós, pampa mía". Gracias a esta relación, Mores arregló y grabó 4 temas de Koga. En Japón, estos discos salieron a la venta en 1939.

Argentina dentro mí (p. 5)

Por Shishido Kavka

Viví 2 años en Bs.As. y fui a un colegio secundario

local. Lo primero que me preguntaron fue: ¿Sos de Boca o de River? Daniel pipi Piazzolla, el nieto de Astor Piazzolla, me enseñó a tocar la batería. Me encanta la ropa de Tramando. Fueron sólo 2 años pero mucho de Argentina ha quedado dentro de mí.

Nota del editor: Shishido Kavka es una exitosa cantante, baterista y modelo. Hija del miembro de la Comisión Directiva de nuestra Asociación, Sr. Kazuro Shishido.

Primer trimestre de 2013 (p. 7)

Por Yasuichi Arao

El argentino Jorge Bergoglio fue elegido como el nuevo papa y la argentina Máxima Zorreguieta fue coronada como la reina consorte de Holanda. En febrero, los supermercados congelaron sus precios hasta abril. La presidenta Cristina Fernández envió al Congreso el proyecto de ley de democratización de la Justicia. Inundaciones en La Plata provocaron 66 víctimas fatales y más de 150.000 heridos y damnificados. Honda Argentina anunció que fabricará 4 nuevos modelos de motocicletas. Según el INDEC, el PIB creció 1,9% durante el 2012 en comparación con el 2011. Al 30 de abril, el dólar estaba a 5,184 pesos.

協会の活動案内

1. 6月28日（金）

第21回「タンゴ音楽の集い」

毎回好評を頂いている当協会主催「タンゴ音楽の集い」を開催します。

テーマは、「タンゴーその黄金時代の魅力を音と映像で再考する」の、第2回目です。

当協会理事 飯塚久夫氏の名解説とトークをご期待ください。

日時：6月28日（金）18：30～20：45

場所：第2光和ビル「シンパシ・フォーラム」地下2階（当協会事務所隣）

2. 6月30日（日）

茨城県境町でタンゴ・ショー

今年は、境町長田小学校の毎年の恒例行事「アルゼンチンの日のつどい」が25回目を迎えると共に、長田小学校と在日アルゼンチン大使館との友好関係が80年目を迎えるという節目の年。これを記念して次の通り特別行事が開催される。

日時：6月30日（日）11：30～

場所：境町公民館

内容：第1部：11：30～昼過ぎまで

長田小学校主催「アルゼンチンの日のつどい」

主賓；駐日アルゼンチン大使夫妻（大使ご都合によっては、公使出席）

来賓；境町町長、教育長、友好功労者野本氏、当協会理事長ほか

第2部：第1部終了後、約1～1.5時間（入場無料）

アルゼンチンタンゴの演奏とダンス主催；アルゼンチン交流80周年記念事業実行委員会

企画・監修；当協会/日本タンゴアカデミー

後援；在日アルゼンチン共和国大使館

協会の活動報告

～ 4月1日（月）

一般社団法人日本アルゼンチン協会発足

昨年5月の通常総会に於いて、特殊法人制度改革新法に基づき、一般社団法人への移行と、これに伴う定款変更が承認されてから1年、準備段階からは3年近くの年月をかけて移行の手続きを推進してきた結果、3月21日に内閣府から移行認可書の交付を受け、3月26日移行の登記申請を行った結果、4月1日に一般社団法人への移行が完了した。

旧来の（社）日本アルゼンチン協会は、昭和32年発足以来公益法人として、日本とアルゼンチン間の友好親善の増進を目的として、公益的事業を展開してきた。

今回の一般社団法人に於いても、基本的にはこれまでの方向を継続する方針です。

移行準備段階から登記申請に至るまで、外部専門家への依頼は一切行わず、全て関係理事と事務局とで手

続きを進めてきたもので、経費節減に多大の寄与をしたこと、多大の尽力を注がれたことを付記したいと思います。

～ 5月25日（土）

アルゼンチン・ナショナル・デイ記念レセプション

第203回目の亜国ナショナル・デイ（建国記念日）を祝うレセプションが、5月25日（土）12：30から約2時間に亘り、デジャン駐日アルゼンチン大使主催で、大使公邸で盛大に催うされた。

大使からの招待状を受けて、各方面からの多数の招待者が集まり、アルゼンチン料理とワインで記念日を祝い、アルゼンチン国歌を合唱した。

当協会から友国会長、木島理事長他多数の役員が出席した。



ラウル・デジャン大使ご挨拶



大使、公使に会長、理事長、荒尾常務理事ご挨拶

～ 5月31日（金） 第1回定時総会/平成25年度 第2回理事会

一般社団法人アルゼンチン協会の第1回定時総会が、5月31日（金）16：30から在日アルゼンチン大使館小講堂に於いて開催された。直前、15：30から開催した平成25年度第1回理事会で、第1回定時総会の目的事項の8議案が満場異議なく、原案通り承認・可決されたので、これら8議案について審議された。



冒頭、議事に入る前、友国会長よりこの会場を提供して頂いたデジャン駐日アルゼンチン大使に対し深甚な謝意が表明された。

鶴岡常務理事から、現在の登録正会員は法人会員17社、個人正会員82名、合わせて議決権総数は99個で、出席正会員は34名、委任状提出が39名、合わせて議決権を有する出席総数は73個で、過半数を上回っており定足数を満たしているのので、総会は適法に成立している旨報告された。

第1回理事会で承認・可決された8議案がそれぞれの担当理事から説明があり、全ての議案が滞りなく承認・可決された。

本年度は理事・監事の改選期に当たり、再任を含めて28名の理事と2名の監事が選任された。

理事： 荒尾 保一 飯塚 久夫 尾見 和男 勝田 富雄
加藤 勝巳 加藤 寛司 川上 貴 イレーネ賀集
木島 輝夫 斉木 茂治 宍戸 和郎 高安 宏治
寺本 安久 友國 八郎 中野 恵正 保坂 庄司
松下 洋 的場 博子 守戸 一清 安田 直弘
吉村 佳人 （以上21名は重任）

石田 仁宏 井尻 収一 楠 宗久 清水 章
嶋 利治 藤田 倍郎 渡部 千秋
（以上7名が新任） 以上 理事28名

監事： 西脇 修（重任） 横山 稔（重任）
以上2名

これら新役員の氏名は、登記完了次第、協会ホームページに掲載します。

尚第5号議案（理事選任の件）に関連して、この総会を以って退任される理事の池田 潤一郎氏、檜山 充氏、白鹿 敦己氏、鶴岡 忠成氏、藤村 登氏に対し、これまでの本協会へのご尽力に深謝する旨議長から申し添えされた。

第7号議案（事務局長人事及び顧問選任の件一報告事項）に関し、木島理事長より6月1日付を以って、次の通り報告があった。

新事務局長 阿部 和子 現事務局職員

顧問

6月1日付、任期2年として、顧問10名が選任された。

河崎 勳 元当協会役員、(重任)

京谷 弘司 バンドネオン奏者、作曲家 (重任)

壽岳 和子 元(財)日本科学技術振興財団理事 (重任)

白鹿 敦己 前当協会役員

鶴岡 忠成 前当協会役員

永井 慎也 元駐アルゼンチン大使

野村 秀治 元当協会理事長 (重任)

林屋 永吉 元駐スペイン大使 (重任)

舩松 伸男 医師 (重任)

星野 美智子 版画家、日本版画協会理事 (重任)

また、新任理事の石田 仁宏、井尻 収一、楠 宗久、清水 章、嶋 利治、藤田 悟郎、渡部 千秋の7氏並びに新顧問の永井 慎也氏が紹介されて、閉会となった。

平成25年度第2回理事会

定時総会に引き続き、同総会で選任された理事により、第2回理事会が開催され、友國議長から役付理事並びに業務執行理事の選定案が示された。

満場一致で先提案は承認されて、次の通り平成25年度の執行部新体制がスタートした。

会長・代表理事	友國 八郎
副会長兼理事長・代表理事	木島 輝夫
常務理事・業務執行理事	荒尾 保一
同上	加藤 勝巳
同上	高安 宏治
同上	川上 貴
同上	寺本 安久
業務執行理事	守戸 一清
同上	中野 恵正
同上	尾見 和男
同上	嶋 利治
同上	藤田 悟郎
同上	渡部 千秋

～ 5月31日(金) 懇親会

第1回定時総会終了後18:30より、恒例の協会会員懇親レセプションが、デジャン大使のご厚意により大使公邸サロンで約2時間に亘り開催された。

友國会長の挨拶、ルイス・アレギ公使の挨拶に引き続き、山田 彰外務省中南米局長の挨拶と乾杯のご発声で懇親会はスタートした。

当協会顧問で著名なタンゴ演奏家、京谷弘司氏率いる四重奏団のタンゴ演奏が始まり、会場ムードは一挙に盛り上がり、140人を超える参加者にとりましては、タンゴとアルゼンチン料理並びにワインをエンジョイしての楽しい懇親の宵となった。

テレサ大使夫人は会の最初から、またデジャン大使は所用で外出しておりましたが、帰邸次第会に来临頂き、参加者の皆さんと終始親しく懇談して頂きました。感謝申し上げる次第です。





協会ホームページの活用及び E-メール通信の件

1. ホームページ (URL:<http://www.argentina.jp>)

何らパスワードの入力は不要で、誰でも自由にホームページ内情報にアクセス出来ますので、ご活用ください。

2. E-mailアドレス

nippon@argentina.jpが、協会のE-mailアドレスです。

アルゼンチンに関わる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えする為、E-mailアドレスを連絡頂いている会員の方にはメール通信を始めております。

このメール通信をまだ受信されていない方で、受信をご希望の方は、住所、氏名及びメール・アドレスを当協会メールアドレス宛 (nippon@argentina.jp) 発信、ご連絡下さい。次のメール通信から送信致します。

ご連絡頂きましたメール・アドレスは、当協会の情報伝達関係以外の用途には使用致しません。

ご質問その他お問い合わせある場合は、協会事務所宛お電話ください。

電話：03-3501-4684 担当：阿部

住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-3501-4684 FAX: 03-3595-3932

E-mail: nippon@argentina.jp

平成25年度 年会費納入のお願い

本年度(平成25年4月1日～平成26年3月31日迄)の年会費のお支払いがまだお済みになっていない方は、早めにお振り込み頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員：1万円

個人賛助会員：5千円

編集長よりの御礼

執筆、原稿につきましては、彫刻家ファン・パブロ・マルトウラーノ様、島崎長次郎様(日本タンゴアカデミー会長)並びに宍戸カフカ様(ドラム・ボーカリスト)にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー (Resumen en castellano) は、イレーネ賀集さん(当協会理事)に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第62号
2013年6月28日発行

発行人 木島 輝夫 (当協会副会長兼理事長)
編集長 加藤 勝巳 (当協会常務理事)
編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会
〒105-0004 東京都港区新橋1-17-1
電話：03-3501-4684
FAX：03-3595-3932
E-mail：nippon@argentina.jp
URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート